

## 日本全国に広がるPFAS汚染～PFASが子どもに与える影響～ ①

### 脱プラサークル

明石神戸PFAS汚染と健康を考える会主催の講演会に参加しました。200名ぐらいの参加者で会場いっぱいでした。

まず、はじめに「多摩地区のPFAS汚染から命と健康を守る連絡会」世話人の高橋雅恵さんから、世界は、なぜPFASを懸念しているのかというテーマで(子どもたちへの影響について)お話を聞きました。豊富な資料をもとに、限られた時間で、大事なことを話されたように思います。箇条書きで、一部紹介します。

○日本は、PFASの製造国で国内生産は、右肩あがり。

(2009年に下がったものの、廃絶規制に反し、生産は上がっている)

○なぜ、子どもたちの健康影響を守る指標値が必要なのか？

→子どもは、化学物質に対する感受性がとても高い。成長期にPFAS曝露を受ける世代の健康を守る指標値が必要。

○欧州は、PFAS(約1万種)をまとめて規制する方向に動いている。深刻な汚染源を抱えているからだ。フランスとスウェーデンでは、10代の20%が、健康ガイダンスを超えている。

○どこからPFASを取り込むのか？

→①産廃工場(大気) ②廃棄物(埋立地) ③消費者製品/食品包装

④食べもの ⑤水

があるが、日本で規制されているのは、⑤の飲料水のみ。

それも、ゆるすぎる規制だ。

○私たちの安全を守る指標値は、どのようにして決められたのか？

2020年、暫定目標値は、アメリカやEPA(欧州)の毒性評価から導き出した。2026年の水質基準50ナノグラムは、内閣府が自ら始めたリスク評価から導き出した。そして、リスク評価する委員、リスク管理する委員、文献を選定する委員が任務を兼務している実態がある。

以上、高橋雅恵さんのお話を部分的にまとめました。

高橋さんは、討論の中で、息子の血液検査結果が、自分より高いことに、大変ショックを受けたと話しました。でも、息子は「調べてよかった。今回が一番高いということだね」と話したそうです。

PFASの子どもへの影響は、すでに始まっているようです。日本の規制が、子どもたちの健康を守るものではないと改めて思いました。



ジャーナリスト幸田 泉さん Facebook より